

1. 教科書p.8～15を読み、以下の文の空所に適する語句を記入しなさい。

地質学でいう（ [1] ）は氷河時代とも呼ばれ、氷期と間氷期が交互に訪れた。氷期には海面が現在より大幅に低下したため、現在の日本列島はアジア大陸北東部と陸続きになり、トウヨウゾウや（ [2] ）などがやってきたと想定される。こうした大型動物を追って、人類も日本列島に渡来した可能性がある。

人類は猿人・原人・旧人・新人の順に出現したとされるが、日本列島では静岡県（ [3] ）や沖縄県の（ [4] ）・山下町洞人など、新人段階の化石人骨が発見されている。このころの人類はまだ金属器を知らず、打ち欠いただけの（ [5] ）石器を使用していたので、この時代を（ [6] ）時代という。かつて、日本列島に[6]時代の遺跡は存在しないと考えられていたが、群馬県（ [7] ）遺跡で関東ローム層から[5]石器が発見され、その定説はくつがえされた。人びとはナイフ形石器や尖頭器を利用して大型動物を捕え、[6]時代の終わり頃には細石器と呼ばれる小型の石器も出現している。

およそ1万年余り前、地質学でいう（ [8] ）に入ると、気候の温暖化で海面が上昇し、現在とほぼ同形の日本列島が形成された。自然環境の変化に応じて人びとの生活もかわり、縄文文化が成立した。縄文文化の特徴は、中・小型動物を射るための狩猟具である（ [9] ）、食物を煮るための土器、石を磨いて作りあげる（ [10] ）石器の出現である。縄文土器にはさまざまな形態があり、型式変化を基準にして（ [11] ）期に区分することが多い。食料の獲得方法も多様化し、人びとの生活は安定性を増した。各地に残る（ [12] ）から骨角器などが発掘され、従来の狩猟・採取に加えて漁労が発達したことがわかる。地面を掘り下げた掘立柱式の（ [13] ）住居の存在は、定住的な生活の開始を示すものである。集落には住居だけではなく、食料保存のための貯蔵穴や墓地があり、青森県（ [14] ）遺跡のように、大型の集合住居がともなう場合もある。

社会生活の面では、各地域で広く交易がなされ、黒色透明の火成岩である（ [15] ）やひすい（硬玉）など、石器の原料となる鉱物の広範な分布がそれを物語る。精神生活の面では、あらゆる自然物に霊威の存在を認める（ [16] ）の考え方をもとに、さまざまな呪術がおこなわれていた。土偶や石棒の製作、通過儀礼としての抜歯、死者の体を折り曲げて埋葬する（ [17] ）などは、その典型である。

1	2	3	4
5	6	7	8
9	10	11	12
13	14	15	16
17			